

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	教育局	
関係部	-	-
	-	-

基本施策	I-2 教育日本一を目指し教育内容を充実する
個別施策	② つくばスタイル科の充実
個別施策の方向	今後さらに発展する科学や情報化技術に対応していくため、つくば市の特色をいかし、市内研究機関や大学等と連携協力しながらICT教育や科学教育を推進する。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)											
H27年度	決算	事業費	168,310	人件費	16,066	事業コスト	184,376				
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	168,310
H28年度	決算	事業費	206,986	人件費	17,976	事業コスト	224,962				
	事業費内訳	国庫支出金	2,428	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	204,558
H29年度	決算	事業費	201,231	人件費	18,890	事業コスト	220,121				
	事業費内訳	国庫支出金	1,695	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	199,536

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	32.5%	36.8%	4.3%
13) ICT教育や科学教育の充実			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
提言	つくばスタイル科の充実に係る調書内容がICTに重点を置いた内容であり、施策に紐づいている個別事業が総体的に見えにくい。調書作成に当たっては工夫が必要である。つくばスタイル科の内容は、現場は理解できても市民にはないようが伝わらない。さらなるPRが必要である。	

取組概要	<p>○「つくばスタイル科」は「つくば次世代型スキル」の育成を目標とする教科であり、「発信型プロジェクト学習」と「外国語活動」とで構成されている。「発信型プロジェクト学習」では、市の教育資源を活用しながら、社会力を育成する、7つの内容（環境、キャリア、歴史・文化、健康・安全、科学技術、福祉、国際理解）に係る学習を展開し、「外国語活動」では、外国語を使った言語活動を通して、言語活用力（コミュニケーション能力）を育むものである。</p> <p>○科学出前レクチャー事業、小中学校プレゼンテーションコンテスト、情報教育振興事業などを実施した。</p>
成果	<p>○テレビ会議システムを活用し、分離型の小中一貫校においても、学園の授業を行うことができた。</p> <p>○科学出前レクチャー事業においては、3年間で計80回、計3,940人の児童生徒が現役の研究者から科学技術等に関する講義や実験を受講した。</p> <p>○第15回プレゼンテーションコンテストを実施し、11,343人の児童生徒が参加した。</p> <p>○情報教育振興事業においては、日本教育工学協会（JAET）から、平成28年度末に市内全ての学校が「教育の情報化優良校」に認定された。</p>
今後の課題	<p>文部科学省が目標とする教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒は3.6人であるが、つくば市は1台当たり8.1人であり、教育用コンピュータが不足している。</p>
改善目標	<p>教育用コンピュータの計画的な導入を行う。</p>

自己評価（所管部署評価）	
自己評価記述	<p>○テレビ会議システムを活用することにより、分離型の小中一貫校においても、学園の授業を行うことができた。</p> <p>○つくば科学出前レクチャーにより、現役の研究者から最先端の科学技術等に関する講義や実験を受講し、科学教育の推進が図れた。</p> <p>○今後とも、つくばスタイル科の充実に寄与するため、ICT教育の推進と科学教育の推進を図る。</p>